

栗原地区土地区画整理事業について再度問う

大坪 国広 議員 (共産)

町長 住民の希望に沿い事業を進める



新駅計画地付近

質問 栗原地区土地区画整理事業は、まちづくり調査などが完了し、環境影響調査を継続、組合設立及び事業認可取得を待つ状況となった。20年度には新駅基本計画も策定されたが、この区画整理の成否を決める新駅の見通しが、JRとの交渉の中で難航していると聞いている。そこで、次の点について所見を伺う。

問① 新駅の具体的構想と展望は。
町長 新駅は、箱根ヶ崎駅と金子駅の間地点を予定し、形式はホーム1面、発着面1線の単式の計画である。ただし、請願駅となる。

問② 区画整理事業の予算規模と今後の町負担額は。
町長 事業費としては130億円を見込み、町負担33億円を助成する予定である。

問③ 一時凍結し、住民との合意形成を図るべきと思うが。
町長 現在、組合設立準備会では、事業認可、組合設立を一日も早く実現する事で意志統一が図られ、町としても多くの住民の希望に沿い事業を進める。

こんな質問もありました

子育て支援策の更なる充実は。

町長 22年度、新たにヒブワクチンの助成、幼稚園授業料軽減を予算計上。

町の将来的ビジョンについて

小野 芳久 議員 (自民)



町長 可能性に満ちた、未来に誇れる町に



旭が丘自治会さくらまつり (武蔵野コミュニティランド)

質問 昭和15年に、箱根ヶ崎村・石畑村・殿ヶ谷村・長岡村を廃止し瑞穂町が誕生した。その後、同33年に元狭山村と合併し現在の町が形成された。その間には多くの町民の協力・支援があった。本年は町制施行70周年であり記念事業の計画もあると聞いており、また第4次長期総合計画も策定中の事である。そこで次の点を問う。

問① 長期的将来的ビジョンは。
町長 町民一人ひとりが互いに支え合うことを基本として、それぞれの夢を実現できる可能性に満ちた、未来に誇れる町づくりを究極の目標と捉えている。

問② 記念事業やイベントなどを多くの地域で開催しては。
町長 70周年をアピールする横断幕、懸垂幕のぼり旗を作り、公共施設や事業・イベント実施地で掲出・掲示したい。また、町が主催する事業以外にも、町内会や各種団体が、各地域で自主的に取り組んでいただけるよう、協力をお願いしたい。

狭山池周辺整備計画について



小池 信一郎 議員 (自民)

町長 歴史と景観に視点を置き、農業や観光と調和

質問 21年度より「狭山池周辺整備基本計画」がスタートし、22年度も継続事業として調査研究を推進することが

質問 21年度より「狭山池周辺整備基本計画」がスタートし、22年度も継続事業として調査研究を推進することが

親水性や里山風景を残す拠点として整備範囲を設定し、年次計画を策定する。

問③ 整備計画におけるコンセプトは。

町長 歴史と景観に視点を置き、農業や観光とも調和した整備を図る。

問④ 今後の課題と具体的な事業化への見通しは。

町長 狭山丘陵最西端にあるカタクリの群生地を次世代に残すため、財源を確保し、公有地化に取り組む。



カタクリの群生地

町長 土地利活用構想を踏まえ、

社会的・道徳的な町民憲章の制定を

尾作 武夫 議員 (自民)

町長 長期総合計画の中で、制定を含め考えたい



まちづくり懇談会 (武蔵野コミュニティセンター)

質問 現代社会においては、人間関係の希薄化は、規範意識の衰退につながっている。他者に対する配慮の欠如など道徳意識が様々な面で社会問題となつている。私たちは、公共社会の一員であることを自覚し、社会的連帯意識や社会秩序を築く責務がある。そこで、単に個人の道徳意識のレベルに止まらず、歴史・伝統・文化など、価値の違いを理解する柔軟な精神をもった社会的・道徳的な町民憲章の制定を提案するものだが、町長の所見を伺う。

町長 町民の発意により制定する機運が高まれば、町民憲章が町民のまちづくりに対する関心を高める大きな役割を持つ。これからのまちづくりは、町民との協働が重要課題である。憲章を制定する経過の中で、多くの人の意見や次代を担う子ども達に参加を呼びかけ、共に考えることで、まちづくりに対する関心を呼び起こす、呼び水になると考える。

第4次長期総合計画の中で、制定を含めて町民が共に考え、まちづくりに関わる機会のひとつとして、位置づけたい。